



活動からの学びと今後について —夢は東京オリンピック—

みなさん、「町興し」とは何だろうか。

それは地域の特産品をつくることだろうか。新たな観光スポットをつくることだろうか。私達はこの活動で、瓢箪イルミを飾ることや、瓢箪で漬物などの特産品を開発して販売することで外から観光客を呼ぶことができ、町や鉄道が活気付くと考えて取り組んできた。しかし日本の人口が減少している今、本当にそれだけで良いのだろうか。

私達はこの活動を通して、「まち」とはまずそのまちに住む「ひと」が存在しているのであって、その人たちの生活を豊かにすることや、笑顔で活気あふれる毎日を送れるようにすることが一番大切なことだと感じた。**子供を生み、ずっとその町に住んでいたいと思えるような町にすることが本当の町興し**であり、鉄道を守ることにもつながっていく。そんなことを、この活動から学ぶことができた。私達の活動で町内の方に瓢箪イルミの作り方を覚えてもらい、いずれはその方達が講師となって観光客向けに製作会を実施することで町に新たな雇用の場を生み出すことができる。養老町を食用瓢箪の一大産地として形成することで、農業従事者の利益を増やすことができる。さらに食用瓢箪の加工工場を作ることで町に新たな産業を興すことができる。

住民が活躍できる場を作ることで自然と外から町に人が来る、そのシステムをつくることが、瓢箪倶楽部秀吉の抱く大きな野望だ。その野望を私達の手で実現できるよう、これからも活動を続けていく。



町に住む人達を笑顔にすることが、本当の町興しであり、鉄道を守ることにもつながっていくと気づいた

総務省から便り

秀吉の活動を知っていたいた総務省行政評価局の佐分利応貴氏より、秀吉宛に1通のメールが届いた。そこには私達を激励する言葉とともに、思いもよらないことが記されていた。以下がその本文である。

様々な困難を乗り越えて、ここまでプロジェクトを進めてこられたことは、本当にすばらしいと思います。

さて、グリーンカーテンについてですが、実は東京オリンピックの大問題はスタジアムではなく熱中症対策なのです。

瓢箪イルミネーションカーテンなら夜も楽しめますし、競技が終了した選手にイルミネーションを作ってもらえばファンの観光スポットにもなるので（瓢箪が盗まれないようにしないといけませんが(^^;)）、すばらしいと思います。

少なくとも500mの来場者用通路はグリーンカーテンを採用するとの話も出ていますので、ぜひチャレンジしてみてください。

よろしければこちらで関係者を紹介させていただきます。

これからも頑張ってください。

秀吉の皆さんと大垣養老高校のますますのご活躍を祈念しております。

総務省行政評価局
佐分利

総務省行政評価局
評価監視官（法務・外務・文部科学等担当）
佐分利 応貴（さぶり・まさたか）

その後、佐分利氏は東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局に秀吉の活動を説明をしていただいた。「若者×地域活性化×オリンピックのおもてなし」のストーリーはインパクトがあり、内閣官房の担当統括官である高原剛氏は大変興味を持っていただき関係者に宣伝していただけたことになった。同じく担当の十時参事官からは、

1) ホストタウンに岐阜県からは高山市、下呂町が手を上げている。こうした地域と組めば導入のきっかけになるのでは。

2) 東京キャラバンというオリンピック関係のイベントがあるので、そこに盛り込めればよいのでは

3) 六本木アートナイトを主催している日比野克彦氏が岐阜県出身・岐阜県美術館館長なので、日比野氏に頼ってみては

とのアイディアをいただいた。

最後に、オリンピックの緑のカーテンの話が本格化するのは2年前からであり、それまでに着実に実績を作つていけば実現可能であるとのアドバイスをいただいた。

瓢箪俱楽部秀吉は、2020年の東京オリンピックで瓢箪グリーンカーテン＆イルミプロジェクトを実施し、養老の瓢箪を世界へと発信するための活動をスタートさせる。